

アーカイブズ・ネットワーク

— 北から南から —



永島 靖
竹内 伸行

小特集
公文書館機能普及
セミナー in 高知

ARCHIVES NETWORK

海老名市立歴史資料収蔵館の 開館について

1 はじめに

海老名市（えびなし）は、神奈川県ほぼ中央に位置する人口127,345人（平成22年8月1日現在）、面積26.48平方キロメートルの地方自治体である。相模川の左岸に位置し、西部は広大な平地（相模平野）が広がるが、河岸段丘の地形から東部は高台（相模原台地）となっている。北部・西部は鉄道路線が交錯しており、南部は東名高速道路が通過している。

東京から50km（電車で約1時間）及び横浜から20kmの圏内にあり、相模国分寺跡等を有する歴史の街である。日本の高速道路のサービスエリアでは有数の規模を誇る海老名サービスエリアがあることで知られる。

また、平成14年4月19日に複合型商業施設「Vina Walk」がオープン。近年、横浜・東京のベッドタウンとして注目を集めている。同時に市内には多くの田園地帯を抱えていて、伝統的な農業緑地と都市住宅が共存している市である。

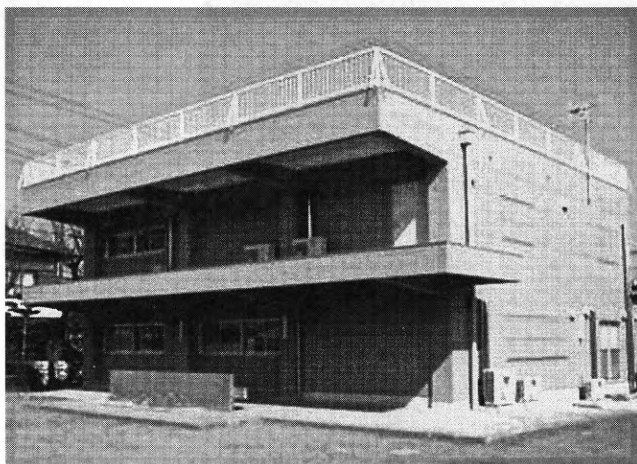
財政規模は、平成22年度の一般会計予算が368億30百万円（前年度比15億3百万円、4.3%の増）、2年ぶりのプラス予算となり、市庁舎を建設した昭和63年度を除くと過去最高水

準となった。特別会計を加えた総予算規模は、571億31百万円（前年度比14億85百万円、2.7%の増）となっている。市の組織は市長部局、行政委員会等を含め全体で11部47課、職員数791人（平成22年4月1日現在）を擁している。

2 歴史の街—海老名

海老名市の歴史は旧石器時代から始まる。縄文時代には、縄文海進によって現在の海老名駅あたりまで水面が上昇した。旧石器時代から古墳時代にかけての遺跡は今なお市内に多く存在し、当時の人々の生活を知ることができる。特に、市内北部にある秋葉山古墳群は、その最初の造営時期は、邪馬台国の女王卑弥呼の跡を継いだ台与の時代と重なり、大型の墳墓（古墳）が造り始められるという大きな変化が始まる時期であった。

秋葉山古墳群は、南関東における出現期古



海老名市立歴史資料収蔵館

墳のあり方やその時期の社会を考える上で重要と評価され、平成17年7月14日付けで国指定史跡となった。

奈良時代になると、全国で相次ぐ天災や伝染病が蔓延し、政治に不満をもつ貴族の反乱が各地で起こるなどの不安が増大した。そのため、天平13(741)年、仏教の力で国家の安寧を祈願するため聖武天皇が全国に国分寺と国分尼寺を建てるようを命じ、海老名の地に相模国分寺や相模国分尼寺が建立されることとなった。

相模国分寺跡・国分尼寺跡は、江戸時代に編さんされた『新編相模国風土記稿』にも記述や絵画が残されており、早くからその存在が知られていた。明治時代になって海老名小学校長であった中山毎吉が荒廃する遺跡の現状を憂いて、調査研究と保存運動を行い、その尽力により相模国分寺跡は、大正10(1921)年に「史蹟名勝天然紀念物保存法」による史跡として指定された。また、相模国分尼寺跡は、未指定のまま宅地化が進んでしまったため、昭和63(1988)年から本格的な発掘調査と保護事業を開始した。発掘調査の結果、全国の国分尼寺と比較しても遺跡全体の保存状態が良好なことから重要であるとされて、平成9(1997)年に国指定史跡となった。

3 海老名の市史編さん事業

海老名市の市史編さん事業は、まず昭和54年3月に、当時の助役を会長とした「海老名市市史編さん調査準備会」が「海老名市史編さんの基本方針」を作成し、市長に提出した



市史関係図書の閲覧コーナー

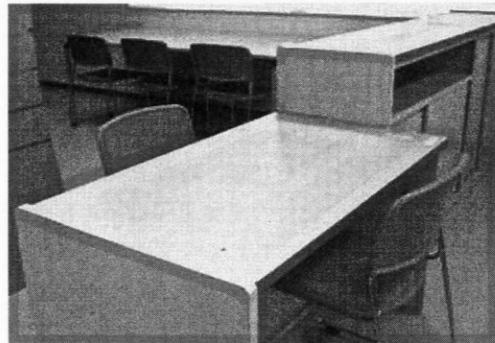
ことからスタートした。その後、昭和59年4月に、総務部内に「市史編纂担当」が設置され職員2名が配属された。昭和62年10月に附属機関である「海老名市史編さん審議会」が設置される。同審議会が市長の諮問を受け作成した「海老名市史編さん基本構想」が平成2年3月に決定された。その内容として、市史編さんの基本構想と基本計画の二本柱から構成され、その中で海老名市史の資料編6巻、通史編3巻、別編3巻の計12巻の発刊計画が提示された(その後計11巻に修正)。

その後、組織体制を充実させながら順次『海老名市史』を刊行し、平成22年度は「教育委員会教育部社会教育課文化財係」の一部として正規職員2名、臨時職員2名で対応している。『海老名市史』の資料編、通史編は刊行がすべて完了し、『市史10別編ダイジェスト』の刊行を残すのみとなった。

4 海老名市立歴史資料収蔵館の開館について

市史編さん事務室については、平成13年3月に本庁舎から、市の出先機関である文化会館小ホール棟に移転した。しかし、平成18年4月より同館が指定管理者による運営となり、また市内に分散している貴重な市史資料を、市史編さん事務室のもと良好な状態で一括保管する必要に迫られていることから、同事務室の新たな移転先を模索していた。

そのような折、かねてから閉館が予定され新たな用途を模索していた市立河原口児童館について、耐震補強・改修を行って新たに(仮称)歴史資料収蔵館とする案が、平成20年1



受付を行う相談カウンター

月に市長から提示された。そこに、市史編さん事務室を移転し、分散している市史資料を一括保管させ、また市史などの刊行物の閲覧や資料などの展示を行うことによって、一般の方に当市の歴史や県内の市町村の歴史などの学習の場を提供する施設としてリニューアルすることとなった。

平成20年度に(仮称)歴史資料収蔵館整備・耐震補強工事設計を行い、また同年の12月市議会定例会に設置条例を上程し可決され、正式に「海老名市立歴史資料収蔵館」として、平成22年4月1日に開館することが決定した。

平成22年2月に市史編さん事務室を同館に移転させ、開館の前日の3月31日に関係者を集めての開館記念式典を実施した。江戸末期に名主の仕事の傍ら狩野派の絵画を学んだ地域の絵師高橋雨山の作品を展示し、好評を博した。こうして、郷土の古文書、神奈川県内外の自治体史や各種歴史関連図書などを集めて閲覧ができる文書館としてスタートすることとなった。

施設の概要については、鉄筋コンクリート造り2階建て、延べ床面積は333平方メートル。1階には閲覧・展示コーナー、市史編さん事務室、移動式書庫、会議室等を設置。2階には古文書などを保管する資料室、編集事務室などを設けている。会議室等については、市民の方への貸出しも実施している。

現在は、刊行物の閲覧のみ行っているが、寄贈された古文書の公開の準備を進めているところである。また、市民の方の家に代々伝わる古い手紙や文書について、その内容を専門家により解説を行う「古文書相談会」を毎月第3木曜日に実施しており、利用者からは「先祖の思いがけない事跡がわかり大変驚いた」などの声をいただき、好評を得ている。

今後は、市史資料の充実を図るとともに、平成23年4月に施行される公文書管理法を見据えて、歴史的公文書の収集・整理を推進する予定である。

〔海老名市立歴史資料収蔵館 永島 靖〕